

伯耆の国よなご文化 創造計画

関連資料集

指定文化財一覧

1 国指定文化財

| 種 類 | 名 称 |
|-------|--|
| 重要文化財 | 石馬、短刀 銘備州長船住兼光附金熨斗付合口俵、後藤家住宅 主屋・一番蔵・二番蔵 |
| 史跡 | 妻木晩田遺跡、福市遺跡、青木遺跡、上淀廃寺跡、米子城跡、鳥取藩台場跡、向山古墳群 |
| 名勝 | 深田氏庭園 |

2 県指定文化財

| 種 類 | 名 称 |
|---------|--|
| 保護文化財 | 絵画土器(角田遺跡出土)、木造十一面観音坐像、刀 無銘伝古伯耆物附銀造糸巻太刀拵、高田家住宅附家相図一枚、鉄茶釜 |
| 無形文化財 | 弓浜緋 |
| 無形民俗文化財 | 米子盆踊り |
| 名勝 | 心光寺庭園 |
| 天然記念物 | 粟嶋神社社叢 |

3 市指定文化財

| 種 類 | 名 称 |
|---------|--|
| 有形文化財 | 太刀 銘安綱、瑞仙寺文書、米子城鯨、横田内膳墓碑および遺品、中村一忠墓地附中村一忠主従木像三体、大谷家資料、安養寺資料、旧小原家長屋門、朝比奈三郎・曾我五郎の草摺りを曳く図、松南農兵隊関係遺品、米子市役所旧館 |
| 無形文化財 | 淀江傘製造技術 |
| 有形民俗文化財 | 芋代官碑、石像・亀甲神社の道祖神神体 |
| 無形民俗文化財 | 日吉神社神幸神事、上淀の八朔行事、淀江さんご節 |
| 史跡 | 日久美遺跡、尾高城跡、清洞寺跡、荒尾家墓所附荒尾家位牌 |
| 名勝 | 粟嶋 |
| 天然記念物 | 和田御崎神社元宮社叢、潮止め松 |

4 国登録有形文化財

| 種 類 | 名 称 |
|---------|--|
| 登録有形文化財 | 米子専門大店、旧米子市水源地旧ポンプ室、旧米子市水源地記念碑、旧米子市水源地水神社、旧日野橋 |

【公開シンポジウムでの意見】

| 米子の特性 | |
|------------------------------------|--|
| 山陰地方のゲートウェイ 宍道湖・中海文化圏 出雲大山王国 | “大山”と“中海” 古代の視点からみる 文化・教育に熱心 米子は開放的で、排他的でない |
| 米子の文化創造に求められること | |
| “米子の履歴書”を再確認 広域的視点からの“文化発信”が必要 | 市民活動への支援 米子文化の情報発信 |

| 歴史・文化資源を、新たな文化創造の為の発信拠点とする為には、 どのようなアクションが必要となるか？ | |
|--|--------------------------|
| 具体的なシステムづくり 文化施設のネットワーク 文化創造は、自然と歴史+人間の一体化である。 | 土台づくりが必要 子どもたちへの文化の発信 |

【座談会での意見】

| 「伯耆の国よなご文化創造計画」がめざす米子の文化 |
|--|
| 米子文化の確認には、出雲の文化を確認する必要がある。 “よなご文化”とは、今あるものを再構築、再発見することで、作りあげていく。 米子を語るキーワードは“自然と安らぎ” “和”をテーマに文化創造 大山はシンボル、米子市内を回遊庭園に |
| 「伯耆の国よなご文化創造計画」のアクションプラン |
| 人材育成について <ul style="list-style-type: none"> ・文化ボランティアの育成 ・文化を育てるための人づくりが大切 ・諸施設ごとのテーマで勉強会を開催し、人材育成 ・「まちづくりは人づくり」 ・市民に価値を認識してもらう 情報ネットワーク <ul style="list-style-type: none"> ・諸施設の資料の研究・保存 ・一般の人や子どもたち向けの情報発信 ・情報発信にはストーリーづくりが必要 ・物語の素材を魅力的なイメージで伝える。 ・市民の視点によるネットワークづくり ・文化的生産基盤の整備 ・諸施設が保有する資料をデジタルアーカイブし、テーマごとに調査・研究を進める。 さらに、観光・産業との連携により情報発信。 |
| 「伯耆の国よなご文化創造計画」の進め方 |
| 誰が計画を実践していくかが大切 協働のまちづくり 本計画のめざす目標・理念を市民のアピールする。 「米子を歩く会」など市民一人ひとりの気運を高める。 今後の推進には、庁内プロジェクトの立ち上げが重要 |

【ワークショップでの意見】

| 米子市に対する要望 | |
|---|--|
| <p>「歴史・文化の保護・活用」</p> <p>「文化の継承」「情報発信・PR」の必要性。 ・「文化の見なおし」「教育、文化、観光行政との連携」「広域的な視点」が大切。</p> | <p>「米子らしさ」</p> <p>・誰もが、古代遺跡や米子城跡などの遺産を“米子らしさ”に挙げ、それらをネットワークして活用していくことが求められている。</p> |
| <p>「山陰歴史館や美術館、図書館の現状と課題」</p> <p>「資料・情報のネットワーク化」の必要性 「他の文化・観光資源との一体的な整備」の必要性 施設設備面では、「老朽化対策やユニバーサルデザインなどへの対応」 「ソフト事業の充実、活動の活発化」のための「施設規模、設備の改善、機能の見なおし」 ・活動を活性化するための、市民の参画として「市民ボランティアの活用」「資源発掘活動、文化の継承への参加」</p> | <p>「観光の視点からの歴史・文化の見なおし」</p> <p>「体験型観光」「療養型観光」等の観点在する資源・施設のネットワークによる観光ルートづくり、アクセスの整備 歴史文化を活かした環境整備 ・「医、食、習、楽」といったテーマでの展開、ネットワーク</p> |
| <p>「情報ネットワーク」</p> <p>情報の収集や蓄積には、公民館活動の活用 ・文化施設や観光施設の連携による情報発信、広報活動</p> | <p>「人材育成、人的ネットワーク」 「市民の参画」</p> <p>歴史文化の学習活動にも、人材バンクの育成市民（特に子どもたち）に対する歴史的、文化的体験の機会の提供 各施設が連携した人材育成プログラムの構築 ・米子を好きになる、誇りの醸成</p> |
| 課題の整理 | |
| <p>「広域ネットワーク」</p> <p>「遺産・資源のネットワーク」や個々の整備の必要性 ・「教育行政、観光行政との連携」大山・中海など「広域の視点による文化ネットワーク」の形成、情報ネットワークによる受発信</p> | <p>「市民と行政が一体となった活動の推進」</p> <p>「歴史・文化の保護・活用」「持続的・発展的な活動」の推進 「歴史・文化遺産の再確認」から「文化の継承、文化の創造」に寄与 市民が文化活動をしやすい環境の整備、充実 「地域独自の地域産業・観光の振興」への寄与 ・子どもたちへの文化継承、後継者育成のシステムづくり</p> |
| <p>「施設の整備」</p> <p>老朽化対策や資料数に応じた規模、利用のし易さを考えた適切な機能や空間づくり ・歴史的な景観の保存・整備、早急な指針づくりの検討</p> | |

アンケート実施結果の分析 (市民・インターネット・シンポジウムより)

1. 米子市民の現状認識

- ・昔ながらの“商都”というイメージが強い。
- ・近年は、衰退イメージが強くなっている。
- ・但し、米子のイメージそのものは“あいまい”といえる。
- ・象徴となる場所や事柄が多様である。良くいえばバランスがあり、悪くいえばイメージが弱い。
- ・特に、観光施設が弱いというイメージがある。

2. 米子市外の方の現状認識

- ・“商都”に加えて“歴史がある”というイメージが強い。
- ・城下町や古い町並みが想起されている。
- ・古代遺跡や史跡の認知度が高い。

↓

地元が気づいていない
魅力がある

→

3. 米子市民が考える今後の方向性

- ・今後の米子市の発展のためには、第一に“観光の振興”、次いで“産業の振興”が必要と考えられている。
- ・“既存の文化資源の活用が重要”と考える人が多い。
- ・文化と観光、さらには産業との連携を望む声が多い。

4. 米子市外の方が考えていると思われる

今後の方向性

- ・“歴史、文化の振興”が相対的に多い。
- ・「米子の文化創造」という計画に対して、市外の方からのほうが相対的に評価が高いようである。

5. 望ましいと思われる方向性

- ・歴史・文化を柱にして、観光、ひいては産業の発展につなげることが、「米子の文化創造における目的の本質」であることを明確に訴求する。
- ・古代遺跡など、広域の歴史・文化資源を網羅することの意義も大きい。

6. 課題

- ・文化創造という内容が、理解されにくいようである。
- ・「計画の内容」「わかりやすい日本語での説明」「市民へのメリット」「観光客へのメリット」「本計画の本質」を明確に訴求していくことが不可欠である。